

赤潮発生状況について

西岡智哉・酒井基介・平野 匠

平成22年度における徳島県沿岸域での赤潮発生状況について、公式に記録することを目的に情報をとりまとめた。

方法

漁場環境調査等における観測や漁業者からの聞き取りを元に、赤潮の発生期間、発生海域、赤潮構成種、及び漁業被害をまとめた。

結果及び考察

表1に平成22年度の赤潮発生状況、図1に赤潮発生件数と被害件数の推移、図2に赤潮発生海域の分布をそれぞれ示した。本年は前年より2件少ない2件の発生がみられた。9月下旬には阿南市椿泊湾で*Gonyaulax polygramma*による赤潮が発生して漁業に対する影響が危惧されたが、短期間で終息し、被害は報告されなかった。今期は赤潮多発期である夏季において降水量が著しく少なく、かつ、台風による攪拌もなかったため、栄養塩が低い状態が続き、赤潮の発生が抑えられたと考える。

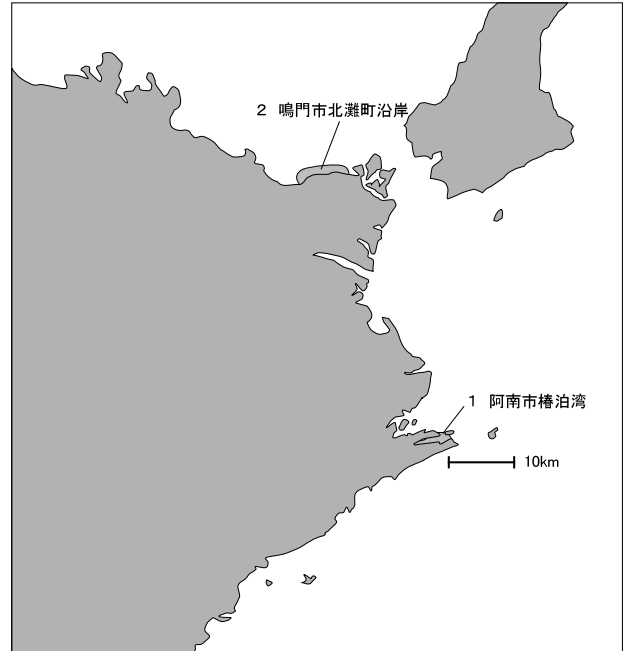


図2. 赤潮発生海域の分布。図中の番号は表1に示した赤潮の番号を示している。

表1. 平成22年度の赤潮発生状況

番号	発生期間	日数	発生海域	赤潮構成種	漁業被害	最高細胞数 (cells/ml)
1	9/22～9/27	6	阿南市椿泊湾	<i>Gonyaulax polygramma</i>	無	12,950
2	11/21～11/24	4	鳴門市北灘町沿岸	<i>Noctiluca scintillans</i>	無	不明

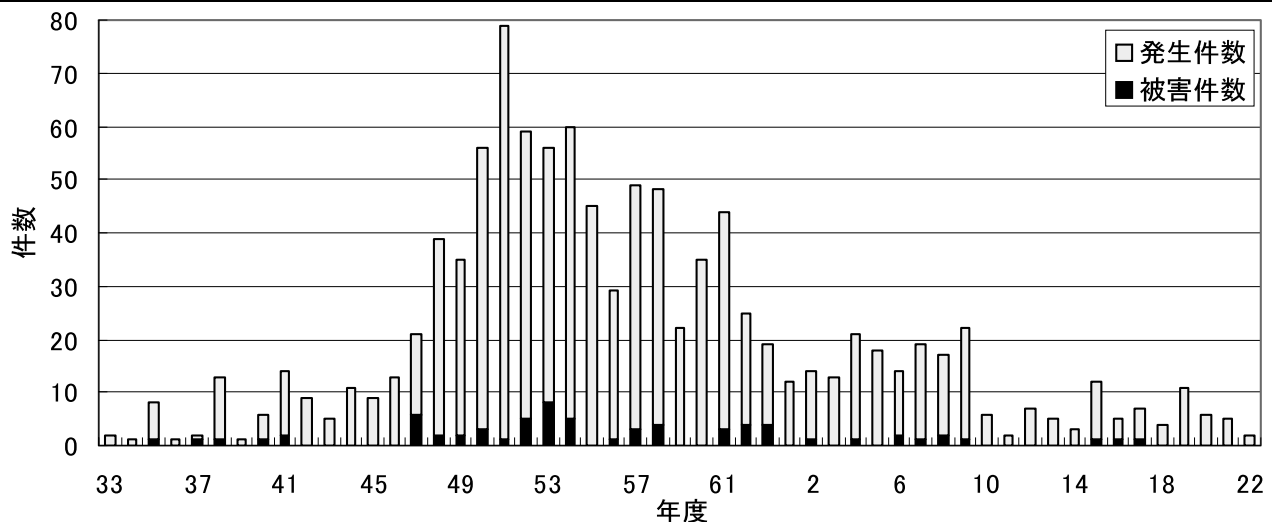


図1. 赤潮の発生件数と被害件数の推移